

スーパーグローバル大学創成支援事業 中間評価結果

大 学 名	立命館大学
整理番号	B22
構 想 名	グローバル・アジア・コミュニティに貢献する多文化協働人材の育成

◇スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会における評価

(総括評価) A	これまでの取組を継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。
<p>(コメント)</p> <p>本構想は、アジアという共同体が抱える共通の課題解決に向け、「グローバル・アジア・コミュニティに貢献する多文化協働人材の育成」を目標とする意欲的な取組である。</p> <p>構想の目標設定は、立命館大学の特色や歴史を踏まえた妥当なものであり、国際化に向けた取組の多くについて数値目標を達成するなど、全体として順調に進捗しているものと評価する。また、学内体制としてグローバル・イニシアティブ推進本部が設置され、全学的な国際化推進の基盤が構築されている。</p> <p>主な実施項目として、いくつかの海外大学とのジョイント・ディグリー（JD）プログラムやダブル・ディグリー（DD）プログラムの推進、キャンパス・アジア・プログラムやインド3大学と理工系3学部の共同事業（RiSE I≡J Project）、海外学習モチベーション喚起のための新型プログラム（Global Fieldwork Project）、教養教育改革、留学生と日本人学生との交流及び学生の自主的語学学習の拠点施設（Beyond Borders Plaza（BBP））の開設、「学びの立命館モデル」等に取り組んでおり、その活動は極めて積極的かつ多彩であるものと高く評価出来る。</p> <p>一方で、事務職員の高度化への取組や日本人学生に占める留学経験者の割合、学部・大学院における外国語力基準を満たす学生数等、数値目標に届いていない重要項目もいくつか見受けられる。また、大学院生の語学レベルの把握・向上については、これらの項目と併せ早急な検討と対策が必要である。</p> <p>上記の課題に対する改善策と各取組を着実に実行することにより、我が国の大学国際化の一つのモデルケースとなることを期待したい。本構想の目標実現に向けた今後の展開に期待する。</p>	